

糖尿透析患者の栄養状態改善への取り組み -皮下連続式グルコース測定 (CGM) による評価-

長崎腎病院

○草刈祥子、畠山今日子、山中真紀子、原田孝司、船越 哲

【背景】

糖尿透析患者は非糖尿病透析患者と比べて多くの食事制限があるため、献立のバリエーションが限られる。また消化管神経障害のために食欲不振から低栄養に陥ることがある。

【目的】

糖尿病透析食を通常の透析食とし、その前後で CGM 測定を行い、食事管理の有用性を検証した。

【対象・方法】

当院入院患者で糖尿病透析食提供者のうち、食事摂取不良かつ低栄養状態の患者 6 名に対して、CGM 測定後に通常の透析食に替え、2 週間後に CGM や HbA1c などの因子を再検した。

【結果】

食事摂取量は 6 例中 4 例で増加したが、HbA1c に変化はなかった。CGM では、血糖変動が透析食でやや大きい傾向となったが有意差はなかった。

【結果および考察】

食事制限を緩和することで食事摂取量の増加につながることを示唆された。透析食で血糖変動が大きい症例が見られたのは、食事時の糖質量と関連があるのかも知れない。